

クエン酸第二鉄水和物 (FCH) と炭酸ランタン・ビキサロマー間での

クロスオーバーによる血清リン抑制効果の比較

医療法人衆和会 長崎腎病院

○江藤りか 中島さゆり 小嶺真耶 矢野未来 佐々木修 一ノ瀬浩
李嘉昭 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

【目的】

新たなリン吸着剤として登場した FCH のリン抑制効果を他のリン吸着剤との効果をクロスオーバーで比較する。

【方法】

リン吸着剤を 1 剤高用量投与している患者 16 名において、文書で同意を得た上で、FCH へ切り替え、2 か月経過したのち、前薬に戻し評価した。患者の選択に当たっては、フェリチンが 100 ng/dL 以下かつリン値が 6 mg/dL 以上の患者を対象とした。また、リン吸着剤単剤同士の切り替えを基本とするが、炭酸カルシウムは用量を変更せずに併用可能とした。また、切り替え時は前薬の量に関わらず 1500 mg から開始した。

【結果】

FCH 変更後に著効した群では、8 週後に平均血清リン値 $6.1 \rightarrow 5.0\text{ mg/dL}$ へと有意に低下し、前薬に戻して 2 週間後にはリン値は 6.5 mg/dL へ再上昇した。

【考察】

FCH は、他のリン吸着剤で効果が十分得られない患者のリン値を低下させることが示唆された。

クエン酸第二鉄水和物 Ferric Citrate Hydrate